# 民国連携の実現に向けたケーススタディー活動について

令和２年１２月３日
広島北部森林管理署

広島北部森林管理署では、神石高原町をフォレスター活動の推進を図るためのケーススタディー地区に設定して、当該地区をフィールドとして民国連携した支援モデル活動を行っており、小規模分散型の森林の集約団地化、木材生産と再造林の低コスト化等の課題解決などに取り組んでいます。12 月 2 日神石高原町三和協働支援センターに広島県、神石高原町、神石郡森林組合、広島森林管理署及び広島北部森林管理署の担当者 10 名による部会を行いました。

会議の様子

部会では、①これまで調査してきた団地候補地の可否、②新たな候補地の情報提供、③今後の活動方針の３点について議論しました。①について３地区のうち２地区は、事業地が小規模で新たな連結路網の作設が難しいこと、地理的に施業が困難等の理由から、候補地から落とすこととしました。なお、候補地から落としても土場・ストックヤードの共有、システム販売等の協調施業の連携は継続していくこととしました。

また、神石郡森林組合から提案のあった新たな候補地については、周辺に所在する国有林の伐採計画を説明するなどした結果、国有林と民有林の共同施業団地化に向けた路網の連結など、現地調査に取り組んでいくことを確認しました。

意見交換では、分収契約の満期を迎える町有林において今後必要な施業、計画等についてアドバイスを望む意見や、国有林が軸となって共同施業団地化を加速することに期待する意見、路網開設の一本化ができないか（県営林、民有林等がそれぞれの所を開設している現状の解消）などの意見が出されました。

発言する広島県担当者

今回の部会の結果を踏まえて２月に開催予定のケーススタディー会議では、活動の成果と課題、令和３年度の活動方針、令和４年度以降の体制のあり方等について、議論を行うこととしています。